

新庁舎・(仮称)新福祉会館建設に係る市民説明会(第2回)	日時	平成30年11月9日(金) 19:00~20:31	場所	公民館緑分館 学習室AB
説明者	西岡市長、天野企画財政部長、中谷福祉保健部長、高橋庁舎建設等担当課長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、岡崎主任、小林主任 地域福祉課 山口主査 (受託者)株式会社大建設 北原氏			
参加者数	29人(うち市議会議員5人)			
次第	1 開会 2 新庁舎建設基本計画について 3 (仮称)新福祉会館建設基本計画について 4 新庁舎と(仮称)新福祉会館の整備手法について 5 建設計画(施設配置)について 6 「これまで」と「これから」について 7 質疑応答 8 閉会			
(進行:渡辺主査)				
1 開会 西岡市長による開会挨拶を行った後、説明員の紹介を行った。				
2 新庁舎建設基本計画について				
3 (仮称)新福祉会館建設基本計画について				
4 新庁舎と(仮称)新福祉会館の整備手法について				
5 建設計画(施設配置)について				
6 「これまで」と「これから」について 高橋庁舎建設等担当課長が2、5について、前島福祉会館等担当課長が3、4について説明を行った後、西岡市長が6について説明を行った。				
7 質疑応答				
【市民A】 基本設計者は、どのような事業者を選定していくのか。大建設の現在の立ち位置はどうなっているのか。 → 大建設は平成29年度の新庁舎等建設計画調査の受託者であり、この度の追加調査の受託者である。基本設計者の選定に当たっては、公募型プロポーザル選考により選考委員会を設置し、公開プレゼンテーション等を行う予定である。				
【市民A】 基本設計者を選ぶ基準は。 → 募集要領等を作成し、公募により募集する。				
【市民A】 どのような設計者を募集するかということについて、公開されるのか。 → 選考基準を定め、公開する。条件は、現在検討中である。				
【市民A】 (仮称)新福祉会館建設基本計画【概要版】に基本設計者が選定されていない中で空間イメージが記載されている意図は。 → 平成29年度に(仮称)新福祉会館建設基本計画市民検討委員会において議論する中で、イメージがないと議論が進まないため、作成したものである。あくまでイメージであり、基本設計段階において設計者からアイデアをもらっていきたい。				
【市民B】 C-3は広場が1,000㎡しかなく、(仮称)新福祉会館が新庁舎の裏に建っていて日当たりが悪そうである。C-2は広場が多く取れており、市民が集う場所になると考える。 → 平成29年度に新庁舎等建設計画調査を実施したのは、既存の清掃関連施設がある中で新庁舎・(仮称)新福祉会館の建設が可能かどうか、可能な場合どのような施設配置ができるのかを法的に検証した上で、竣工時期、事業費等を示したものの。その後、事業手法の見直しを行った後に、清掃関連施設の暫定移設を行わず、(仮称)新福祉会館の先行竣工などを追加で調査した結果がC-3。C-3の配置のまま進めるのではなく、前述の条件を加えた場合においても成立する見込みがあるので、清掃関連施設を暫定移設しない、という考えについて意見を伺いたい。C-2も清掃関連施設を暫定移設することなく、複合で建設する案のため、基本設計段階においては、検討になり得ると考えているし、C-2、C-3以外にも様々な施設配置の可能性があり、どのような配置が望ましいかは基本設計段階において検討していくこととなる。				

広場という視点を大切にしてほしいという意見は承った。新庁舎・(仮称)新福祉会館は多くの市民が利用し、多くの方が仕事をする場でもある。利用する市民の目線は大事だと思っており、基本設計段階において、更に検討していきたい。

【市民C】 事業費で見ると、C-2とC-3で大きな差はない。(仮称)新福祉会館を南側に配置した方が広場も広く取れ、日当たりもよいので、C-2の方がよい。Cre-2で決まったというわけではないということではよいのか。

→ Cre-2は清掃関連施設を暫定移設する案で、清掃関連施設を暫定的に移設しないのがC-3案で、暫定移設をしないことについて意見を伺うものである。C-2は新庁舎と(仮称)新福祉会館を横に並べて配置しており、Cre-2のように縦に配置した方が機能上の連携において優位性があると考えており、同様に縦に配置した場合において、清掃関連施設の暫定移設を行わない案について検討を行ったものがC-3である。

施設配置は、基本設計段階において市民参加も行いながら検討していきたい。

【市民D】 小金井に住んで10年になるものの旧福祉会館は利用したことがないが、(仮称)新福祉会館を1日でも早く開館してほしいという声が届いている。どれだけの市民が求めているかは分からないが、市民の切実な願いである。

→ 旧福祉会館は長い間、福祉の拠点として年間約9万5千人が利用していた施設で、機能を早く回復してほしいという声は市にも多く寄せられており、新庁舎・(仮称)新福祉会館機能をしっかり展開できるようにしていきたい。平成28年3月をもって耐震上の課題から閉館したところであり、社会福祉協議会は暫定的に事務所を借りて業務を行っている。市域の西側の保健センター、子ども家庭支援センター及びファミリー・サポート・センター機能等も加わることとなる。

【市民E】 (仮称)新福祉会館の面積は、旧福祉会館と比べて多くなるのか、少なくなるのか。

→ 旧福祉会館の面積は約2,760㎡であるが、他に様々な機能が加わることとなる。相対的に見れば面積は増える。(仮称)新福祉会館に公民館機能は入っていないものの、多目的室・マルチスペース機能は増えている。具体的には基本設計段階において決定していくこととなる。

【市民F】 新庁舎は現状よりも駅から遠くなると思うが、公共交通手段等の考えは。

→ 中央線が高架化されて9年、ココバスの運行開始から15年経つことから、ココバスの総合的な見直しを行う。自転車で来庁される方が多くなることが予想されるため、駐輪場を400台確保する見込みである。敷地内ロータリーを設置することで、福祉車両利用者にも配慮した設計が必要と考えており、基本設計段階で設計者のアイデアももらいながら検討を進めていく。民間バス路線は、これからの課題と考えている。

【市民G】 施設配置を初めて見たが、当初は横並びだった施設配置が検討を重ねるに連れて縦並びへと変遷している理由は何か。

→ 4つの配置は、段階的に検討を進めたわけではなく、並行して検討していったものである。

4つの配置は、関係法令上いずれも成立し得る案である。JRの高架橋は建築物に当たり、日影等の制限が生じる。また、西側も道路があり、制限が生じることから、施設配置は南東側に寄っている傾向がある。

【市民A】 基本設計者の選定はコンペ方式により行うのか、それとも実績等を配慮して行うのか。

→ 公募型プロポーザル方式を予定しているが、実績や事業規模等を考慮した方がよいのか、アイデアを重要視した方がよいのか等、選考委員会に学識経験者を加え、評価項目も併せた検討を行っていく予定である。

【市民A】 以前どこかの大学と連携して事業を進めようとして頓挫したことがあったと思うが、その方が選考委員に加わるのか。

→ 大学との共同研究により設計を行おうとしたところ、建築士法に抵触することから事業を取り止めた経過がある。選考委員会は設計者の選考であり、設計を行うのではなく、募集要領や評価項目に関わっていただくものである。

【市民A】 選考委員会の委員はどのような方を選ぶのか。

→ まだ決定していないが、建築学に精通した方、福祉に精通した方、防災に精通した方等様々な視点から知見をいただく形で選考していきたい。

【市民A】 選考委員会の委員は公開されるのか。

→ 公表する。

【市民H】 施設配置において、周囲への日影を考慮し南東部へ寄せたとの説明があったが、施設の日当たりを最優先に考えて施設配置を考えるべき。(仮称)新福祉会館も南側へ向いた方が広場も広く取れるし、事業費的にもC-2が最も安い。Cre-2が最も早く施設を使えることとなるのか。

→ (仮称)新福祉会館を南側へ向けるという点については、市議会へ陳情書も提出されており、意見については認識しているところである。C-2の場合、6階建てとなり、1フロアに多くの面積を取ることができないのがデメリットである。関係法令を含めて施設配置を検討しており、いただいた意見を基に、基本設計段階において皆様が快適にお使いいただけるよう検討していきたい。

(仮称)新福祉会館を最も早く供用開始できる案はC-3である。一方、新庁舎はCre-2と比較し

て5か月遅れることとなる。これは、工事際に面積を確保しづらいことから施工性が劣ることによるものである。

【市民Ⅰ】 複合化という考えの基にまとめられたと思うが、C-3は新庁舎と（仮称）新福祉会館の間に隙間が生じている。これは、近くにあるけど単体ということか。複合化の考え方に変化があったのか。複合化には利点があるものの必ずしも建物が1つである必要はなく、敷地内に異なる機能があり市民が利用しやすければ、スペースの共用等は不要と考える。どうしても建物をつなげる必要があれば通路でつなげばよいのではないか。C-3は立体駐車場がなくなっており、他案と同様に立体駐車場をつくれればより広くの広場空間を確保できると考える。建物出入口は、福祉車両により来られる方もいるので、建物の近くに駐車スペースが必要と考える。これは自転車も同様の考えである。実際に使ってみると細かい点がいくつも出てくる。

→ 複合化には建物面積の縮減、コスト削減等一定のメリットがあると考えている。福祉会館へ来る方々は、福祉の申請を併せてする方も多くおり、1つの建物に新庁舎と（仮称）新福祉会館があればこれまで以上に利便性が高まる。今後、数十年使い続ける施設であり、施設の配置、連携について、来庁者はじめその場で働く方々の目線を含めて基本設計段階においてより良いものを検討していきたい。また、複合施設として整備することでスケールメリットを追求し施設規模の縮減を目指すという考えである。基本設計段階において上部構造も含めて構造計算を行った上で判断を行うが、免震構造を採用することで地下空間を有効に使う地下の利用を考えている。立体駐車場は、広場の在り様含め、基本設計段階において検討していきたい。

C-3は、この施設配置では（仮称）新福祉会館を耐震・制震構造、新庁舎を免震構造としてシミュレートを行っていることから、エキスパンションジョイントで結合することを想定している。一体の構造とすることも今後設計段階においてあり得る。市民サービスの提供に当たっての実際の使い勝手等を踏まえ、設計段階において検討したい。

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設に係る市民説明会における
意見シート

平成30年11月9日 公民館緑分館

<ul style="list-style-type: none">○ 広場2, 000㎡の確保を是非○ 福祉会館を最優先で
<ul style="list-style-type: none">○ 福祉会館の日当たりが良いところに、庁舎、子どもの施設、障害者の施設があるのですから、もちろん庁舎の日当たりも大切ですが
<ul style="list-style-type: none">○ 新福祉会館の竣工を前倒しにする見直しに賛成します。できるだけ早い竣工を強く希望します。○ P34の中間処理場のプラスチック、ペットボトル、空き缶、びん処理施設を平成36年度末までに整備完了となっていますが、現在のシルバー人材センターの利用地の整備はあくまで新福祉会館の竣工後、移転完了後としていただきたい。シルバー人材センターは、新福祉会館の竣工・移転完了までは現在地で執務できるよう特にご配慮願います。中間処理場の整備と新庁舎・新福祉会館の建設スケジュールは一体のものとしてコントロールしていただきたい。
<ul style="list-style-type: none">○ 市長はじめ市職員の方々にこうした市庁舎等の建設計画についてご説明いただき誠にありがとうございます。小金井市に住んで20年余りですが、市長から市政の問題について話を聞いたのは今回が初めてですが、とてもいい機会で、今後も議員さんたちだけでなく「市長」も市民の話を聞く機会をつくっていただければと思います。また、今回の説明会ですが、30数年にわたって市庁舎建設を続ける市政に「ピリオドを打つ」の決意で「スピーディー」に様々な市民はじめ専門家にも意見を聞き進めてほしいと思います。そのためには「市民」が市庁舎・福祉会館建設を待望するような声が出るよう、例としては「防災に強い街づくり」の先頭に立つ市政・新庁舎を作るというインパクトの強いコンセプトのある「スローガン」をつくり進めてほしい。 なお、市長選が来年ありますが、市長が変わったら駄目にならないよう頑張ってください。 本日は良かったです。
<ul style="list-style-type: none">○ 市内で何度も開催してくださるのはありがたいですが、ネット中継して下さるともっと助かります。子どもがいる場合、なかなか参加できません。パワポで説明する部分だけでも録画配信してほしいです。○ 現在、蛇の目跡地を園庭のない保育園がお散歩場所として使っています。この代替地についても工事に入る前に用意することを忘れずにしていただきたいです。
<ul style="list-style-type: none">○ コスト縮減のためには従来方式よりDBが有効ではないでしょうか。
<ul style="list-style-type: none">○ 基本設計者の選定を公開方式にしてほしい。また、基本設計者の選定する有識者も公開してほしい。